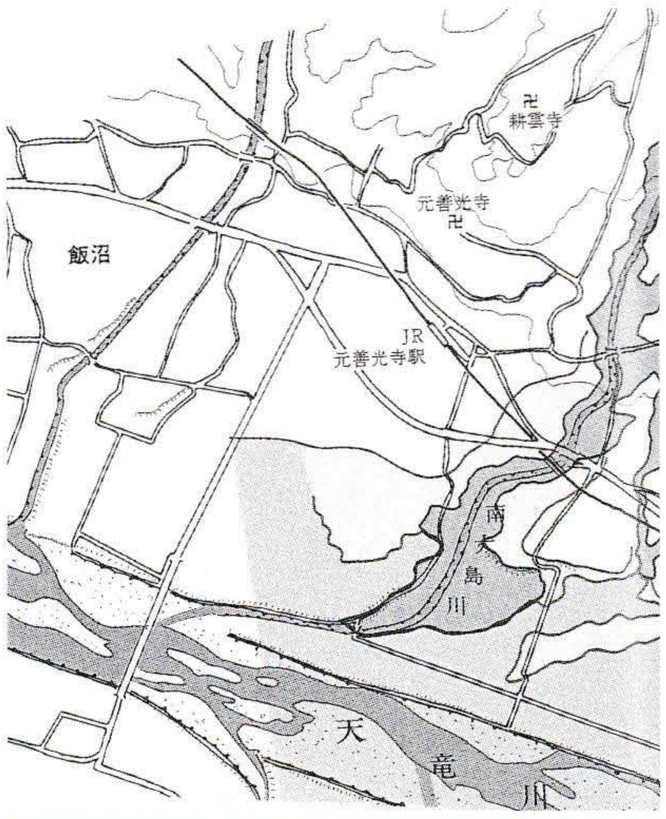
水辺の広場はどんなところでしょうか？

天竜川は、度々の満水で地域住民を苦しめてきた反面、その水利は米作・漁業・交通面などに、多くの恩恵を与えて来ました。また、子どもたちにとっては、魚とり・水泳・野鳥観察など自然に親しみ、思う存分遊べる絶好の場所でありました。近年、水質悪化や危険防止などから、子どもは遠ざけられ河川敷は荒地として放置されてきました。そんな中、阿島橋周辺を「河川敷公園に」という意見が出されて、水辺の広場委員会が創られて今年で4年目になります。どのような公園を考えているのでしょうか。

天竜の水害（満水）

伊那谷の水害は「満水」といって恐れられてきました。満水は天竜川ぞいの低い土地でおこるだけでなく、高台の上や山すそなど、あらゆる場所に水と土砂がおそう伊那谷特有の土砂災害です。1961年（昭和36年）6月の大水害は、何十年に一度もしくは百年に一度くらいにしかおこらない大災害でした。座光寺でも南大島川を中心に災害にみまわれました。

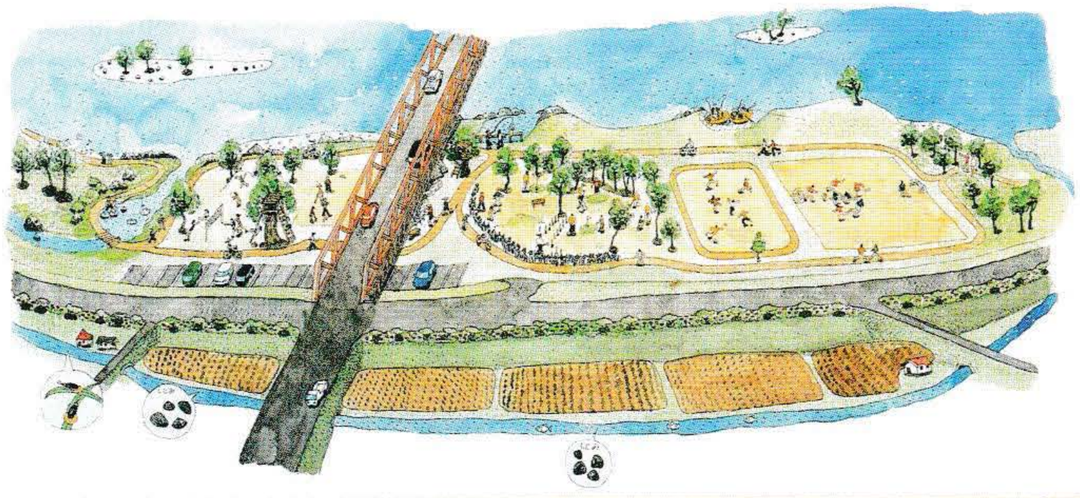
河川敷を荒地として放置するのでなく、親子が自然に親しみつつ、創造性を発揮して自由に遊べる場として利用を望む声があがりました。



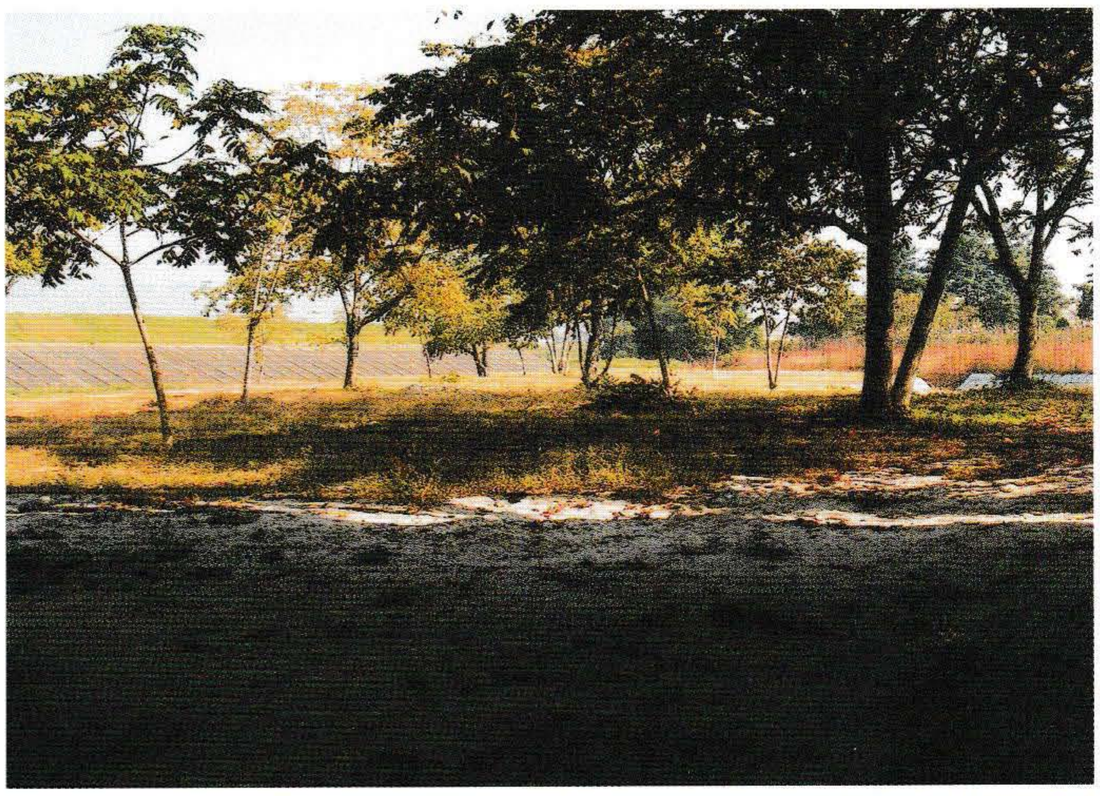
天竜川・南大島川のはんらん
（伊那谷の土石流と満水）

河川敷公園への動き

国も地域の要望を踏まえて、ラフティングや自然観察の場として整備を進めるようになりました。地域としても幼児から高齢者までが、健康増進や憩いの場として、また交流の場として楽しめる公園の創造に取り組んでおります。



「水辺の広場」整備構想



開園を待つ水辺の広場

どんな広場になるの？

「水辺の広場」構想の図にもありますが、マレットゴルフ場の増設をはじめ、花壇づくり、水遊びのできる水辺木陰にベンチがあり南大島川に橋を掛けサイクリング、ウォーキングコース、（約1km）また、砂山、木登り等のできるターザンコース、野鳥・植物・水生生物の観察、など学校・保育園と連携した取り組みやキャンプ場なども考えています。

水辺の楽しさと逆に水のこわさを知るのも体験の一つです。青空の下で力一杯体を動かして健康づくりに利用してほしいものです。

また将来的には、座光寺の下段地区を含めた水辺にホタルが飛びかい、シジミや魚が棲むそんなすばらしい麻績の里＝座光寺を考えています。

そのために、ホタルの乱舞する里をめざして、指導者をお願いしてホタルの現地指導会を開きました。ホタルの生育には、水温・水質・水深・流速・水量・土質などの条件が適していることが大切で、水辺の広場は条件にあっているとのことです。

（棚田　守）